

# 国文学研究資料館報

## 第53号

平成11年9月

### 魯庵の夢

谷川 惠 一

関東大震災は多くの貴重な文献を灰燼に帰した。「帝大図書館の何十万冊を筆頭として、神田の古本屋町の連発の肆頭に積まれたものまで合算すれば、罹災した書籍の総数は何百万冊か何千万冊にも上るだらう」。震災後いちはやく「典籍の廃虚」を書いてこう推定した内田魯庵が痛惜したのは、しかし、膨大な量の文献が失われたことではなく、「巨億を積んでも二度と再び決して獲られないもの、滅亡」、すなわち、東京帝大図書館が蔵していたマックス・ミューラー文庫や白山黒水文庫、さらには安田善次郎宅にあった松廬屋文庫など、洋の東西の稀覯書コレクションの喪失であった。これらの「永遠に償はれない文化的大損失」を嘆く一方であえて「亡失

は典籍の運命」であると平然といつてのけていた魯庵は、これから帝大図書館の復興に際しては、「稀覯の記録典籍の副本」を作ることその「付帯事業」とし、館蔵のものをはじめ「金銭づくでは到底獲られない図書察其他諸家の秘本を借写し、或るものは臨写して以て万一に備ふる」よう具体的に提案した（「図書館の復興と文献の保存」。将来必ず訪れる同様の災厄に備えるために組織的な複製づくりに乗り出すべきだというのは、稀書複製会の同人でもあった魯庵らしい提案だが、そうやって貴重な文献を保存していくために帝大図書館内に「調査課を新設」して「書史学研究」を行っていく必要があるとつけくわえることをかれは忘れなかった。このときの

魯庵の念頭に、目録さえ満足に残さずに亡んでいった幾多のコレクションのことがあったことは間違いない。かれが繰り返したその必要を説いた「書史学」は「ピプリオグラフィ」のことであり、その任務は、「書目、及び書目編成法」「著者の異名又は通称」「著述年代及び刊年」「版式及び装釘」「重版、覆刻、異本等の異同」などについて研究・考証していくことにある（「書齋生活」）。

「古文獻は国家的に保護しなければなら」ず、できればそのための「独立した一機関」を設けるべきだとも述べていた魯庵の提案は聞き届けられることなく、震災から六年後の一九二九年に魯庵は亡くなってしまふのだが、いま、魯庵たちが生きた時代の文献の調査と保存に着手しながら、震災から半世紀たって設置された国文学研究資料館を魯庵の構想にひそかになぞらえてみたりしている。

もっぱら「普通の新刊又は近刊」からなる「通俗図書館」と「古版や外国書」を扱う「高等図書館」とをはっきりと区別する魯庵は、「帝大其他二三の文庫が厄を免かれて大橋図書館ぐらゐを損害の筆頭とするなら文献の最大厄と痛恨するほどの大事で無かつた」とまで冷ややかにいひきつていたが（「典籍の廃虚」）、地下の魯庵が大橋図書館の後身である今日の三康図書館のことを知つたとすれば、帝大に入つたかつての貸本屋・大惣の本の罹災を惜しんでいた魯庵のこと、一も二もなく、明治・大正文獻の有数のコレクションであること認めるに違ひない。各地の「通俗図書館」の書架に並んでいた「通俗書」は、震災やその後の戦災をくぐりぬけてほしいに稀覯書となつてきており、なるべく早く「書史学」の視点からこれらを調査し、目録に記録しておく必要がある。出来上がった書目を眺め

魯庵の夢 谷川惠一	1
中村真一郎氏田蔵・日本漢詩文集コレク	3
ション・ロバート・キヤンベル	3
データベースのCD-ROM出版について	4
中村康夫	6
文獻資料部事業報告	6
研究情報部事業報告	8
整理閲覧部事業報告	10
倉部	11
新職員等名簿	14
集金等予告	5
シンポジウム コンピュータ国文学	17
特別展示・公開講演会	17
国際日文学研究集会	17
新ホームページのお知らせ	17
文庫紹介31・諏訪市図書館 久保木秀夫	2
新収資料紹介44・和学者書簡集 鈴木洋一	13
閲覧室利用案内	18
人事異動	19
秋季学会開催一覽	20

る「興味は実に情人の消息を聞くに等し」いものがあり、「原版を髣髴せしむる」精巧な「フアクシミル」がそこに添えられていればなおよいだろう（「書齋生活」）。調査と並行して、文献の保存にもとりかからねばならない。かつての稀書複製会の事業が「数年間の苦心惨憺を経て」なんとか「一般の理解と同感」とを得るまでになったように、国内をカバーする目録すらまだない中でこれからわたしたちが少しずつ行なっていくこととしていることはなかなかやっかいな事業となるだろう。「搦て、加へて複製または覆刻すべき原本を搜尋して所蔵者の了解を得るのが一と骨折りである」（「出版上の道徳」）。なんとか「所蔵者の了解を得」たとしても、魯庵たちのような「複製」や「覆刻」の作成はとでもできそうにないので「副本」を作ることになるが、マイクロフィルムすらまだ知らなかった魯庵が、書目や副本の作成にデジタルカメラを使用し「フアクシミル」ならぬデジタル画像を撮影するという計画を聞いたらいったいどんな顔をするだろう。「時代の風潮は如何ともする事は出来ぬ。習俗に囚はれてゐる人たちがペンで書

いたのは俗だナゾと云つてゐる内に何時の間にか盡くペンになつて了ふは、丁度書籍が何時となく盡く活版の洋綴となつて了つたと同様であらう」と断定するいきさよさを持ちあわせ（「万年筆の過去、現在及び未来」）、写真術についての詳しい評論を書いたこともある魯庵のことだから、案外手放しに賛成してくれ、モニタの上の「副本」をなつかしく読んでくれるのではないだろうか……。

近代の文献を対象に今年度から第四文献資料室が開始した、ノートパソコンとデジタルカメラを用いての文献の調査・収集に迫られつつ、なんとも虫のいい白日夢にふけていたら、どこからか聞き覚えのない意地悪なつぶやきが聞こえてきた。「イツの間にか明治の初期の亡佚するのが当然の運命の愚書悪書も珍本級に昇格してゐる」——あわてて反論しようとする、低い声はこんなふうが続いた。「段々講釈を聞いて見ると、生物学者が下等動物を扱ふやうな態度で見れば愚書悪書も夫々相当な価値を持つてゐる」（「古本」・O・C・X）。夢の後味はそんなに悪くなかった。

（文献資料部教授）

## 文庫紹介③

### 諏訪市図書館

諏訪市図書館には、高島藩関係者を中心とする地元諸氏の旧蔵書が保管されている。昭和六二年に調査を開始した段階ではまったくの未整理状態であったが、図書館の方々のご理解と調査員諸氏のご助力を賜り、昨年度、無事調査を終了することができた。なおマイクロフィルムによる撮影は、現在も継続中である。

総数七〇〇点以上。その中には兵法書や作法書の類が多く見られ、旧蔵者が藩士であったことを窺わせる。また漢籍類も少なくない。総じて江戸中期以降の版本が大半を占めているが、時に興味深い資料が見出せたりする。昨年度の調査では、慶長四年（一五九九）のいわゆる伏見版「孔子家語」が確認された。

国文学関係で特筆すべきは、旧藩主の諏訪氏が市に寄贈された「源氏物語」と「平家物語」の写本である。うち「源氏物語」は五四冊揃、箱書の「北小路俊孝筆」が事実ならば室町末期の

写。連歌師兼如（号是齋）の添書もある。またその伝来には松平定信が関与していたようである。一方の「平家物語」は一二巻一二冊、「于時大永二年壬午林鍾吉日 吉田大夫律師興秀（花押）」という書写奥書を持つ。該書については村上光徳氏（駒沢大学文学部研究紀要）二四号・昭和四二年三月）、及び村上誌子氏（「信大國語教育」第三号・平成五年九月）にご論がある。それらによると、書写年次が大永二年（一五二二）と判明する点、また「覚一本成立以前の様々な諸本の特徴を共有する固有な伝本」（村上誌子氏）とみられる点で、注目される本文だという。

諏訪市図書館は、JR中央本線の上諏訪駅から徒歩一五分。月曜休館。問い合わせは二三九二一〇〇二七 長野県諏訪市湖岸通り五一二一八、電話〇二六六（五二）〇四二九。

（文献資料部 久保木秀夫）

## 中村真一郎氏旧蔵 ・日本漢詩文集コレクション

### ロバート・キャンベル

昨年の冬、国文学研究資料館は故・中村真一郎氏（大正七年三月五日生、平成九年十二月二十五日没、享年七十九歳）の蔵書のうち、氏が半世紀近くかけて自ら集めた和装本八百三十一冊（二千八百八十一冊）を購入した。十数点の漢籍を除けば、全ては江戸期から昭和にかけて日本で印行された漢詩文集である。そのほとんどは、日本人による著作であり、中には和刻本七十点ほど含まれている。八百数十点と言えば、一つの文芸ジャンルに集中する蔵書としては歴大な量であり、時代のスパンも、寛永八年刊『錦繡段』から昭和二十八年刊『風外詠史百絶』というふうに、悠遠なものである。出版形態からみると、整版から木活字版（弘化四年跋『行雲樓遺稿』三冊、同五年序『寸碧樓詩稿』二冊、嘉永四年刊『素堂遺稿』一冊（森田素堂著、『国書総目録』未載）、文久三年跋『閑雲遺稿』一冊、刊年未詳『愛日樓欄外書』一冊、同

『得泰船筆語』二冊、明治八年刊『箕山文鈔』一冊）、さらに銅版（明治十五年刊『鴻齋文鈔』）、金活字（明治七年刊『愛古堂漫稿』）に始まって百余点）へと、印刷史の変遷を自ずと描き切るほどの多様さをほこる。当館では戦後の文学史を反映して、日本漢詩文を必ずしも重視してこなかったが、ここ数年、杉浦梅潭文庫に、広瀬青邨文庫、豊後白杵藩儒吉田家代々の詩文稿、明治期原本など、いくつもの良質の資料群を収蔵する好機会に恵まれてきた。中村真一郎氏の蔵書はその中であって、超弩級のコレクションである。近世以降の日本漢文学を調査研究する基礎が、いよいよ固まってきたと言ってもよからう。

中村真一郎氏が、戦中から戦後、日本の小説・批評界を代表する作家であったことは言を俟たない。後半生において、『頼山陽とその時代』（昭和四十六年刊、芸術選奨受賞）から『蠣崎波響の生涯』（平成元年刊）、執筆中に急逝された『木村兼葎堂のサロン』（『新潮』一九九五年一月〜一九九八年三月）にいたるまで、詩文家の群像を介して、日本人の精神内部を剔抉しようと努力してやまなかった。詩文集との出会いが、精神病治療のさなかに起こったことはよく知られているが、その頃のことを、本人は晩年に次のように回顧した。「それまで私にとって日本の伝統は、平安朝の女流作家の一群であったが、江戸の漢詩文書の本版本の数千巻が、東京、京都、名古屋をはじめとして、昔の藤堂藩の学校のあった伊賀上野などの古書肆から、次つぎと集まってくるに及んで、私のなかに、江戸時代の特に出版の盛んになった中期以後、ほぼ寛政以後くらいに、知識人たちの群像が、徐々に姿を現わして行った。」（『木村兼葎堂のサロン』第一回）

詩文との接近は、書き入れからするとすでに戦前、東京帝大仏文学科に在籍中の一九三九年に遡るようだが（『民国版』『古詩源』）、大半は、昭和三十年代以降の時期にかかるといえる。中村氏は、散逸のことを案じておられたらしく、晩年にインタビューなどでは、度々蔵書のことに触れていた。「主として江戸後期の漢詩文集数千冊、写本ではなく木版本のものですが、わりあいと揃っているんです。（中略）せっかく収集したものが散逸するものもつたいないし、かといって無償で提供できるほど財があるわけじゃない。遺族になにがしかのものを残せたらという思いもあるし、どこか公的機関で引き取ってくれないかと思ひまして……」（『週刊文春』「びーぶる」欄、九三年一月二十一日）

見渡してすぐ分かることは、中村氏がとくに個人アンソロジー（別集）に主眼を置き、化政期以降、明治前半にかけての本を重複を避け、端本を採らず、非常に丁寧に収集された、ということである。「頼山陽」などの評伝を構築するための材料であったことから当然であるが、本人は同時に、目前のプロジェクトから離れ、文学史全体の見直しを立てるための海図を蔵書に見出そうとしておられたようである。（5頁下段へ続く）

## データベースのCD-ROM出版について

データベース室長 中村 康 夫

岩波書店がCD-ROMで「国文学研究資料館データベース」古典コレクションを刊行することになった。これは、データベース室が平成8年度に事業をスタートさせた原本テキストデータベースの完成版を次々に世の中に送り出すものである。

事業は二つの委員会によって内容が決められる。一つはデータベース化候補原本の決定と仕様その他を決める原本テキストデータベース委員会であり、今ひとつは、実際にデータベース形成の作業をして、作品ごとにデータを磨き上げ、専門的なこだわりを盛り込む監修員会議である。国文学研究資料館が短期に良質のデータを形成して公開できる秘訣はここにある。

その事業が、昨年度に二十一代集データベースを完成し、今年度に絵入源氏物語データベースを完成して、2つのデータベースが同時に刊行されることになったのである。底本はいずれも近世の版本

であるが、校異を掲げ、異文も検索できるようにしている。また、新編国歌大観や、源氏物語大成とのリンク情報も盛り込んであるの、孤立しないデータベースを実現している。

データベースといえば、ブラックボックスの中に大量のデータが格納されており、コンピュータの性能を誇示するかのごとく瞬時に探したい情報を探してくるというものがよくあるものである。少なくとも、それ以上のものはあっても使いこなせないという人も多い。しかし、データベースは構造体であり、構造を持つ以上は、その構造を基本にした情報処理をしてやれば、さまざまなことができるものである。

例えば、絵入源氏物語データベースを例にとると、本文に不満の人は、校異が付加できたり、その校異も本文として検索できないかと考えるはずである。また、諸本対校の形に転用できないかと考え

る人もいるだろう。さらに、古注釈を全部入力し、本文と同じシステムに入れて、本文の周りに注釈を配し、機能的な検索ができないかと考える人も多いに違いない。これらのことが実現するためには、少なくとも、データとその仕様がブラックボックスに入っているのではなく、開放されている必要がある。

また、それが開放されていても、国文学者の大半はプログラムが書けるわけではないのだから、比較的楽に使える検索システムが付属していなければ、絵に描いた餅ということにしかならない。そのシステムは、検索ができ、検索結果が転用でき、データ加工・編集の機能があり、データベースを育てるための書き込みや、情報の付加を組織的に助ける機能が欲しいものである。今回のデータベースの刊行は、その全てを一通り実現した。



絵入源氏物語より(桐壺巻)

は使いようがなく、バージョン管理の考え方が重要なので、提供したデータを修正していくことは、ユーザの感じる必要性に委ねることになる。いずれにしても、質問と回答の窓口はデータベース室に設定して、対応していく。

研究は個別であり、コンピュータを利用した個別の研究は個別のプログラムに依ってしか実現しない。個別のプログラムは、自分で書けない人は情報工学系の専門家に依頼するしかない。予算を留意して企業に依頼すると、かなりの金額を想定しなければならぬ。これは国文学者の日常性を大きく越えている。だから、検索システムが面倒を見るより先のこととは、ほとんどの国文学者は身近にいる情報工学を専門とする人に頼むしかないが、それを面倒だと思ふ人は、結局、研究の広がりはそのシステムの機能次第ということになる。

構造があるということは、ルールがあるということであり、ルールがあるということは、大勢で進めることが容易であるということである。本質的に一人でこつこつ進めるしかないと感じておられた

方も多いと思われるが、研究の様式が様変わりする可能性が芽生え、そこから学問としての作りに明るい変革の兆しが期待できるだけでも大きな変化であろう。

毎年刊行される研究誌の中に、本文の翻刻と資料紹介がどれだけあるだろう。そのすべてが、この検索システムの登場により、仕様にあったタグ付けさえすれば、直ちにデータベースとして組み込むことが可能になり、統合的な検索を楽しむことができるようになる。原本の所蔵者の理解が得られれば、是非、データベース出版へと進んでいただきたいものである。

手近にあるエディタやワープロソフトで、自分に必要な作品のデータベースが簡単に作っていきける。例えば、伊勢物語の本文の周りに伊勢物語の古注が全部寄る。かつては夢のような話に思えたことが、今、人が揃いさえすれば容易なこととして進められるのである。

資料館から提供されるメニューは、今後、吾妻鏡・歴史物語(栄花物語・大鏡・水鏡・今鏡・増鏡)・鈴鹿本古事記・島根大学本出雲風土記抄と続くのでご期待いただきたい。

### 第5回 シンポジウム コンピュータ国文学

日時・平成11年12月3日(金) 10:00~17:00

参加自由・無料

午前の部 10:00~11:40

〈講演〉

河添房江(東京学芸大学)「データベース源氏物語に期待するもの」

室伏信助(東京女子大学)「源氏物語の本文研究—現状と課題—」

(※昼休憩・会場外で関連サイトおよびCD-ROMのデモ)

午後の部 13:00~14:40

〈講演〉「ニューメディア・データベース」

伊井春樹(大阪大学)……………角川書店版

今西裕一郎(九州大学)…………九州大学版+勉誠出版版

中村康夫(国文学研究資料館)……………岩波書店版

15:00~17:00

〈討論〉パネル・ディスカッション「源氏物語研究とデータベース活用」

伊井春樹(大阪大学)

今西裕一郎(九州大学)

河添房江(東京学芸大学)

中村康夫(国文学研究資料館)

室伏信助(東京女子大学)

司会・伊藤鉄也(国文学研究資料館)

(3頁から)

「江戸後期に爛熟期を迎えた日本文化は、明治になると逆に退行していきます。文学史には日本の漢詩は非常に小さくしか扱われていないけど、明治に入ってからも引き続き、漢詩は教養人のたしなみ。漱石も鷗外も漢詩をうたっています。江戸期に盛んだった俳句、和歌以上に漢詩は表現が豊かだし、当時の文化人たちの考えや教養程度を推し量る

上で実に貴重な資料です。(二週刊「文春」、前出)

文人たちの教養程度を通時的に考えると、たとえば文政十二年間に五十八点、天保十四年間に七十三点、嘉永六年間に七十五点、という風に、幕末に下るほど網の目を細かくしていかけたことも間違いない、そこにコレクターとしての意識が垣間見られるのである。

(文献資料部助教)

# 文献資料部事業報告

新藤 協 三

平成十一年度の調査収集事業は、五月二十日の収集計画委員会の議を経て、五月二十七日の国文学文献資料調査員会議（総会）で具体的な打合せを行ない、順調に進んでいる。

今年度から本格的に始まる明治期資料の調査と収集は、パソコンやデジタルカメラを使用して行なうため、明治期資料の調査に携わる調査員のみ午前中から出席し、具体的な説明や手ほどきを受けた。古典分野の調査に携わる調査員は昨年と同様に午後から参加したが、休憩を挟んで後半からは、全員が一堂に会した。明治期資料の調査・収集に関しては、調査カードの書式も収集のメディアも異なるため、今後当分の間は、従来の方式と新方式とが並行することになるが、両者をいかに調整してゆくかという問題が新たな課題として課せられることになった。

当館の調査収集業務は調査員の方々のご協力を得て、年間目標を

調査七千点以上、収集五千点以上を目指して行なわれるが、現在まで調査点数二十五万三千八百点余、収集点数十四万九千六百点余に及んでいる。

\*平成十年度国文学文献資料調査・収集の概況

## 一、調査

平成十年度は、本年三月末までに一三七箇所在所蔵資料九二九四点を調査した。

北海道・東北地区（順不同・敬称略、一部省略。以下同じ）

北海道教育大学附属図書館（札幌校）・伊達市開拓記念館・八戸市立図書館・弘前市立図書館・東北大学附属図書館（狩野文庫）・仙台市

民図書館・仙台市博物館・山寺芭蕉記念館・酒田市立光丘文庫・金

峯神社・米沢市立米沢図書館

関東地区

茨城大学附属図書館・筑波大学附属図書館・足利学校遺蹟図書館・

観世文庫・東京芸術大学附属図書館（脇本文庫）・宮内庁書陵部・

法政大学能楽研究所・明治大学附属図書館（毛利文庫黒川本）・三井文庫・東京大学文学部国文学研究室・東洋文庫・東京都立中央図書館（東京誌料）・東京都立中央図書館（特別買上文庫）・尊経閣文庫・横浜開港資料館

中部地区

新潟大学附属図書館（佐野文庫）・新潟県立新潟図書館・新潟県立文庫・柏崎市立図書館・黒川村立公民館・鶴岡文庫・石川県立図書館（川口文庫）・金沢大学附属図書館・小浜市立図書館・山梨県立図書館・上田市立図書館（山崎文庫）・上田市立図書館（花月文庫）・市立小諸図書館・諏訪市図書館・磐田市教育委員会・浜松市立賀茂真淵記念館・三島市郷土館（勝俣文庫）・名古屋大学附属図書館（岡谷文庫）・名古屋

蓬左文庫・愛知県立大学附属図書館・大須文庫・名古屋博物館・西尾市教育委員会（西尾市岩瀬文庫）・尾鷲市立中央公民館郷土室

近畿地区

布施美術館・夢望庵文庫・京都府立総合資料館・京都大学文学部（頼原文庫）・陽明文庫・蘆庵文庫・瑞光寺・京都市某家・京都国

立博物館・奈良女子大学附属図書館・郡山城史跡柳沢文庫保存会・宝山寺・大阪天満宮御文庫・大阪女子大学附属図書館・田辺市立図書館・青山歴史村

中国・四国地区

鳥取県立図書館・太鼓谷稻成神社・岡山大学附属図書館（池田文庫）・ノートルダム清心女子大学附属図書館・津山郷土博物館・広島大学附属図書館・三原市立図書館・専徳寺・山口大学附属図書館（棲息堂文庫）・萩市立図書館・香川大学附属図書館（神原文庫）・鎌田共済会図書館・総本山

善通寺・愛媛県立図書館・大洲市立図書館・徳島県立図書館（森文庫）・丈六寺・高知県立図書館（山内文庫）

九州地区

柳川古文書館・佐賀大学附属図書館・祐徳稲荷神社（中川文庫）・長崎大学附属図書館・長崎県立長崎図書館・肥前松平文庫・松浦史料博物館・長崎県立対馬歴史民俗資料館・熊本市立図書館・臼杵市立臼杵図書館・杵築市立図書館・佐伯市教育委員会・竹田市立図書館・日田市立淡窓図書館・都城市立図書館・琉球大学附属図書館

近代(明治期資料)

八戸市立図書館・弘前市立図書館・信州大学附属図書館・名古屋市蓬左文庫・和歌山大学附属図書館(南文庫・紀州藩文庫)・南方熊楠邸保存顕彰会・高知市民図書館・香川大学附属図書館(神原文庫)・佐賀大学附属図書館・祐徳稲荷神社(中川文庫)・熊本大学附属図書館(五高旧蔵書)

庫・尊経閣文庫・東京大学文学部宗教学研究室  
中部地区  
新潟大学附属図書館(佐野文庫)・福井市立図書館(松平文庫)・長野県短期大学付属図書館・上田市立図書館(花月文庫)・上田市立図書館(花春文庫)・諏訪市図書館・磐田市立図書館・浜松市立賀茂真淵記念館・名古屋市蓬左文庫・愛知県立大学附属図書館・大須文庫・新城ふるさと情報館(牧野文庫)・西尾市教育委員会(西尾市岩瀬文庫)

キオソノネ美術館・サレジオ大学・ブルベラー家・ポルトハイム・シュティフリンク民族学博物館

近代は昨年度新規に開始した調査、海外は文部省科学研究費補助金による調査である。

二、収集

本年三月末までに左記の六二箇所在所蔵資料三九八七点を収集した。

北海道・東北地区

八戸市立図書館・弘前市立図書館・盛岡市中央公民館・仙台市民図書館・酒田市立光丘文庫・初瀬川文庫

関東地区

茨城県立歴史館・筑波大学附属図書館・宮内庁書陵部・法政大学能楽研究所(鴻山文庫)・東洋文

庫・尊経閣文庫・東京大学文学部宗教学研究室  
中部地区  
新潟大学附属図書館(佐野文庫)・福井市立図書館(松平文庫)・長野県短期大学付属図書館・上田市立図書館(花月文庫)・上田市立図書館(花春文庫)・諏訪市図書館・磐田市立図書館・浜松市立賀茂真淵記念館・名古屋市蓬左文庫・愛知県立大学附属図書館・大須文庫・新城ふるさと情報館(牧野文庫)・西尾市教育委員会(西尾市岩瀬文庫)  
近畿地区  
正教蔵文庫・京都府立総合資料館・蘆庵文庫・陽明文庫・郡山城史跡柳沢文庫保存会・南方熊楠邸保存顕彰会・青山歴史村  
中国・四国地区  
ノートルダム清心女子大学附属図書館・光藤益子・三原市立図書館・益田家・鎌田共済会図書館・総本山善通寺・四国大学附属図書館(瘦瘠文庫)  
九州地区  
祐徳稲荷神社(中川文庫)・肥前松平文庫・臼杵市立臼杵図書館・杵築市立図書館  
海外

カリフォルニア大学バークレー校  
\*平成一一年度調査収集計画  
本年度は、調査一三八箇所(近代・海外を含む)八六七〇点、収集六五箇所(同)五二一〇点を目標として、調査収集業務を開始した。その内、山形大学附属図書館を始めとする二〇箇所の新規調査、黒川村立公民館以下一二箇所の新規収集が含まれている。  
\*海外資料の調査・収集  
本年度は、ドイツのベルリン東アジア美術館・ブルベラー家(ケルン)、イタリアのキオソノネ美術館、及びチェコのナーブルステク博物館等の、海外科研究費による調査が予定され、カリフォルニア大学バークレー校東アジア図書館本の収集が予定されている。  
\*第五文献資料室  
本年度は客員教授として成城大学朽尾武教授が着任した。併任助教は、前期は広島大学妹尾好信助教、後期は名古屋大学塩村耕助教授。それぞれの専門分野に基づいて、文献資料部の書誌学的研究や調査収集業務に参加していた。

1. パンツァー教授が平成十年客員教授として着任、本年度は、カリフォルニア大学アーバイン校のステイブ・ブーン・カーター教授が九月一日より平成十二年三月三十一日の間着任し、「中世における題詠の研究」の研究テーマの下に研究活動に従事している。この外、科学研究費による短期招聘研究者として、パリ第六大学のセシル・サカイ助教が三月一日より二十一日の間来館した。  
\*その他  
調査員地区会議は、北海道・東北地区は十月下旬に仙台で、中国・四国地区は十一月初旬に高松で、それぞれ開催する予定である。本年度は教官スタッフに異動はなく、昨年度と同じメンバーで研究活動、業務活動に従事している。非常勤研究員は木戸雄一氏が昨年度から継続して採用になったが、リサーチ・アシスタントは岡崎真紀子氏(成城大学大学院在籍)と合瀬純華氏(大妻女子大学大学院在籍)が、それぞれ新規に採用された。研究支援推進員・事務補佐員も昨年度と変わりが無い。『調査研究報告』第二十号が六月三十日付で刊行された。(文献資料部長)

# 研究情報部事業報告

松村雄 二

## 情報資料室

第二十二回国際日本文学研究会を、十一月十九、二十日両日にわたって開催した。参加者は八十五名（うち外国人は三十三名）。

本年度は特集として「境界と日本文学―日記・手紙の視点から」のテーマを設けた。研究発表者九名のうち、五名はこのテーマに関するものであった。招待研究発表者は、カリフォルニア大学バークレイ校のジョン・ウォレス客員

助教授と、木浦大学の朴賛基助教授、公開講演は「境界としての埋甕―海波・縄文から万葉歌へ―」の表題で聖徳大学の山口博教授、「慶長遣欧使節団とアズテク

人歴史家の日記にみるその経緯」の表題で、ボン大学のベーター・パンツァー教授が行った。

この集会の記録は、本年十月刊行の予定である。

この他、新聞掲載の国文学関係記事の収集、年二回（九月・三月）の館報の発行を例年通り行った。

## 情報分析室

「国文学年鑑」平成九年版の編集を完了し、予定通り平成十一年三月末に刊行した。

主要項目の収載件数は、ほぼ次の通りであった。

◇雑誌・紀要・論文集所載論文件数 一一、〇九八

◇新聞所載論文件数 二〇

◇学会一覧数 四一

◇学会研究発表一覧数 四一五

◇新指定文化財数 一五

◇平成九年度文部省科学研究費等交付数 四八一

◇受賞一覧数 八九

◇計報 四一

◇単行本一覧数 二、三三八

◇収載雑誌紀要一覧数 一、一七八

◇翻刻複製一覧数 一、〇〇五

◇執筆者一覧数 八、四九九

頁数は前年度（平成八年版）より一二頁減の八四九頁。販売価格は前年度と同じ一、五五〇円である。

当館では平成十二年度中に従来の大型計算機を撤廃し、ダウンサイジングが予定されている。これに対応するため当室では、一年間のずれをともなう実施されていた「国文学年鑑」編集業務と「国文学論文目録データベース」作成業務の一本化を計りつつある。両者の同時作成システムの開発については、昨年度に引き続きデータベース室、情報処理室、情報分析室の共同で基本システムの策定を行いつつある。

なお本年度（平成十一年度）より、従来の手書き原稿から脱し、データの初期入力からコンピュータへの打ち込み作業を開始した。システム開発と初期入力作業を同時並行して行っているため、作業が錯綜・膨張している。「国文学年鑑」（平成十年度）の刊行は、例年より若干遅れることになろう。「国文学論文目録データベース」の方は、十二年度にはデータベースの試験公開、十三年度には新システムを公開することを目標にしている。

データベース室の事業は、現在

次の四本柱で成り立っている。一つは室の創立以来の主事業である「国文学論文目録データベース」の新規一年分及び遡及分データの追加搭載、一つは平成三年度からデータベースの構築を進めている「古典人名データベース」の推進、一つはデータベースの利用サービスを応援する事業、残る一つは、平成八年度よりスタートした「原本テキストデータベース」事業である。

国文学論文目録データベースは、十年度は新規一年分として平成八年の分（レコード件数一二、三七〇）、遡及として昭和十六年から昭和三十七年分（同三五、五九五件）の計二十二年分を追加搭載し、その結果、平成十一年四月からのデータベース検索にかかる総件数は約二九七、〇〇〇件となった。古典人名データベースは、データ数が次第に大きく蓄積されてきたことから、公開に向けての具体的な検討とセットで仕上げを確認する必要があり、現在、詰めの難しさと格闘しながら、データベースを鋭意進めている段階である。データとしては、公聊補任の他に、尊卑分脈等の系図からのデータ抽



出を行っている。

データベースのサービス業務は、利用者総数が次第に増えつつあり、利用者層も拡大しつつある。申請に関する質問も、中学校・高等学校の先生からの問い合わせが相当にあり、これは中・高の教育にパソコンが浸透してきていることと並行した現象と思われる。

原本テキストデータベース事業は、新しく歴史物語（栄花物語と四鏡）のデータベース化を委員会において決定し、これで十年度は、館内での最後の総監修の段階にある絵入源氏物語データベース、監修員による監修段階にある吾妻鏡、初期入力段階にある歴史物語と、この三本のデータベースが並行して進められることとなった。絵入源氏物語の総監修は順調に進んでおり、七月以降に二十一代集データベースとともに公開された。

十二月三・四日に「コンピュータを使ったコラボレーションの可能性と問題点」と題して開催した第四回「シンポジウム国文学」については、前号の館報に記述したので改めて繰り返さない。

#### 情報処理室

情報システムに関わる通常の運用・運転を除く平成十年度の事業を、以下のように実施した。

(1) 館内LANの整備  
補正予算により、高速館内LAN(ATM)を整備した。  
基幹通信速度100Mbpsを実現した。

(2) Z39.50の導入と電子資料館システム  
補正予算により、電子資料館システムの実験設備を導入した。Z

39.50による国際標準の情報検索システムの国文学データベースへの適用をはかり成功させた。  
(3) 業務システムの運用  
マイクロ資料目録、研究論文目録、古籍籍総合目録、本文データベースなどの運用機能拡充などを行い、平常通りの運転を実施した。

また、資料管理、OPAC、文字セット管理システムなども平常に稼動している。  
(4) 新規システム開発  
本文データベース、SGML(Standard Generalized Markup Language)へのデータベース変換などの研究開発を引き続き行い、実験用システムを実現した。

「マイクロ資料目録データベース」、「和古書目録データベース」、「国文学研究画像データベース」を一体化したマルチメディアデータベースと、古典本文データベースの二つのデータベースシステムは実用化のレベルに達した。  
(5) 国際接続  
前年度に引き続き、英国、米国、イタリア、フランスなどから当館データベースへの国際接続実験を行った。また、各国におけるネットワークの現状調査を行った。  
カルフォルニア大学サンディエゴ校を中心としたPacific Rim Digital Library Alliance (PRDLA)に参加し、参加各国の大学図書館との情報交換を開始した。  
(6) 館外との協力  
人文系共同利用機関情報システム連絡会において、各機関の情報システムの現状、ホームページなどについて情報交換を行った。更に、複数機関との間でデータベースの相互検索についての具体的な実験を開始した。

助教授を迎えた。十年度は同一のテーマに取り組むこととし、中古の物語である狭衣物語の諸本対校データベースの開発を進めた。具体的には、本文領域だけの諸本の本文データを個別に入力し、並列的に検索して結果を出力する方法で実験を試みた。

#### 情報メディア室

室長である丸山勝巳教授が七月一日をもって学術情報センターのシステム研究系教授として転任し、その後任の補充は十年度一杯行わなかった。転任した丸山教授を学術センターと併任の形で依頼し、前年度以降から継続の課題である電子資料館構想の一環として「古典籍総合目録データベース」システムの設計・開発、ダウンサイジング移管システムの構築実験を続行した。  
(研究情報部長)

#### 研究開発室

客員として野村精一実践女子大学教授、伊藤一男北海道教育大学



## 整理閲覧部事業報告

## 整理 閲覧部

整理閲覧部では、資料の受入、整理、保存、利用サービス及び参考業務、公開講演会の開催、展示等の業務を行っているが、平成十年度の当部の業務は次のとおりであった。

## ①資料の受入

資料受入数についてみると、マイクロ資料は、ロールフィルム一〇一リール、紙焼写真本一、一〇四冊、図書は、六、六三〇冊、逐次刊行物は、三、三三三冊であった。その結果、平成十年度末での全所蔵数は、表のとおりとなった。

## ②マイクロ資料の整理

平成十一年度版目録（一九九九年）に収録予定の三十七文庫、六、五六九点について整理を行った。

## ③図書資料の整理

活字本・影印本は、二、四六三冊、写本・版本は、七七五冊を整理した。

また、逐次刊行物は、一、七三六タイトルの受入、整理を行い、

所蔵タイトルは、四、二二〇誌となった。

## ④活字本・影印本と逐次刊行物の目録システムのシステム移行

二〇〇〇年問題の解決と公開の促進を図るため、活字本・影印本の目録システムと逐次刊行物目録システムを新システムに移行し、OPACを統合する計画を進めている。

平成十年度は、システムの移行の計画・準備を行い、両システムを統合した新システムに移行した。

## ⑤古典籍総合目録作成事業

「統合古典籍データベースシステム」として、古典籍の総合所在目録データベースを構築し公開することをめざし作業を継続している。

平成十年度は、前年度に引き続き、古典籍総合目録データベースの一環として蓄積してきた古典作品典拠ファイルの総点検を中心に作業を進めた。

また、データベース上の五、〇

〇〇件の書誌データについて、著作及び著者を決定し、典拠ファイルとの関連付けを行うとともに、著作データ一、五〇〇件の登録を行った。

システム面では、研究情報部の協力による新システムの開発を継続して行った。

## ⑥閲覧業務

年間開室日数は、二二六日、来館利用者数は、八、七二四人（一日当たり三八・六人）、登録者数は、一一、二〇一人（一日当たり九・七人）であった。閉架資料の閲覧点数は、二五、七〇三点（一日当たり二三・七点）であった。

また、文献複写は、三二、八四八件（一日当たり一四〇・九件）で、その内訳は、電子複写（リータブリント）を含む（二七二、九一六枚、紙焼写真二二、八三九枚、ポジフィルム二、〇九五コマ）であった。

## ⑦相互利用

郵送による文献複写・相互貸借の受付は、複写二、四〇二件、貸借三二件九三冊であった。他機関への依頼は、複写一四八件、貸借一件であった。

## ⑧資料の保存

当館所蔵原本（写本・版本）の

マイクロ化事業は一八五点、約二七、五〇〇コマの撮影を実施した。保存用ネガフィルムの外部保管委託は、平成八年度収集分一、〇五九リールを追加委託し、総計二七、八三三リールとなった。また、和古書の帙を八〇個作成した。

なお、例年どおり、四月末から五月初めにかけて資料のくん蒸年度末には蔵書点検を実施した。

## ①参考業務

国文学に関する参考質問の受付・回答は四三二件であった。

## ②公開講演会

国文学の普及業務として、次のとおり公開講演会を開催した。  
・第五十回「伊勢物語の絵とことば」（五月二十九日、当館）  
「鉄心斎文庫の伊勢物語コレクション」山本登朗氏（光華女子大学教授）  
「伊勢物語絵の世界」仲町啓子氏（実践女子大学教授）

## ③「伊勢物語」の本文と「伊勢物語」の享受

片桐洋一氏（関西大学教授）

第五十一回「軍記物語を読み直す—平家物語から太閤記まで—」（七月二十四日、当館）

「平家物語の受容と展開―中世から近世へ―」櫻井陽子氏（熊本大学助教）

「近世の軍書―近江の戦国時代を描いた作品を例として―」笹川祥生氏（京都女子大学教授）

「太閤記の描く秀吉像」江本裕氏（大妻女子大学教授）

第五十二回「源氏物語講演会―宇治橋の長さちぎりは―」（十二月十九日、宇治公民館、宇治市源氏物語ミュージアムと共催）

「源氏物語の本文とは何か」伊井春樹氏（大阪大学教授）

「宇治の中君―紫式部の人物造型―」岩佐美代子氏（鶴見大学名誉教授）

③ 展示

○ 特別展示

・ 春期特別展示「鉄心斎文庫所蔵伊勢物語展」

（五月二十五日～六月五日）

○ 常設展示

・ 第七十回「軍記物語の流れ」

（七月六日～八月七日）

・ 第七十一回「和書のみまごま」

（十月二十六日～十二月十一日）

・ 第七十二回「版本の挿絵」

（二月十五日～三月二十四日）

④ 講演集の刊行

公開講演会の講演録である「古典講演シリーズ」は、第三巻として、平成七年度に品川歴史館と共催した講演会「文学と歴史からみた町人群像」と、平成九年度の講演会「文芸の価値―商業精神と文学―」の記録を「商売繁昌―江戸文学と稼業―」（臨川書店）と題して刊行した。

所蔵資料統計 (平成11年3月末現在)

資料種別	点数	冊(リール)数
マイクロ資料		
マイクロフィルム※	144,021点	31,721リール
マイクロフィッシュ	16,000点	55,106枚
紙焼写真本		64,752冊
図書(古書及び新刊書)	41,280点	109,052冊
逐次刊行物	4,220誌	135,425冊
寄託資料		958冊

※他に紙焼写真による収集がある。

彙報

委員会日誌

平成11年

2月12日 大学院設置準備委員会(第三回)

2月16日 図書選定小委員会(第六回)

2月22日 大学院設置準備委員会(第四回)

3月4日 古典籍総合目録委員会

3月16日 貴重書指定小委員会(第一回)

3月18日 図書資料委員会(第二回)

3月25日 大学院設置準備委員会(第五回)

3月26日 大学院教育協力委員会(第三回)

4月22日 大学院設置準備委員会(第一回)

5月7日 原本テキストデータベース監修員会議(第一回)

5月11日 大学院設置準備委員会(第二回)

5月19日 情報システム専門委員会

5月20日 将来構想委員会

5月25日

5月27日 国文学文献資料調査員会議(総会)

6月1日 大学院設置準備委員会(第三回)

6月4日 原本テキストデータベース委員会(第一回)

6月11日 共同研究委員会(第一回)

6月15日 創立30周年記念行事準備委員会

6月22日 移転問題検討委員会

7月13日 大学院設置準備委員会(第四回)

7月21日 創立30周年記念行事準備委員会

7月27日 文獻目録委員会(第六回)

8月3日 国際日本文学研究集会委員会

国文学文献資料収集計画委員会(第一回)

国文学文献資料調査員会議(総会)

大学院設置準備委員会(第三回)

原本テキストデータベース委員会(第一回)

共同研究委員会(第一回)

創立30周年記念行事準備委員会

移転問題検討委員会

大学院設置準備委員会(第四回)

大学院設置準備委員会(第五回)

図書選定小委員会(第一回)

創立30周年記念行事準備委員会

文獻目録委員会(第六回)

国際日本文学研究集会委員会

運営協議員会の開催について

平成十一年度第一回運営協議員

会が平成十一年六月二十四日(木)に開催され、管理運営の概況、平成十年度事業・研究報告、平成十二年度概算要求について協議が行われた。

評議員会の開催について

平成十一年度第一回評議員会が平成十一年七月一日(木)に開催され、管理運営の概況、平成十年度事業・研究報告、平成十二年度概算要求について評議が行われた。

外国出張

安永 尚志

渡航先 連合王国

目的 国文学電子化テキストの異本同定プロジェクトに関する研究

期間 平成11年2月3日～平成11年2月8日

安永 尚志

渡航先 フランス共和国

目的 国文学デジタル資料館システムの国際共同構築と利用のための技術仕様の検討と接続環境の調査研究

期間 平成11年2月20日～

原 正一郎

相田 満

平成11年3月3日

原 正一郎

渡航先 アメリカ合衆国

目的 国文学デジタル資料館システムの国際共同構築と利用に関する研究

期間 平成11年2月21日～平成11年3月7日

松村 雄二

中村 康夫

渡航先 連合王国

目的 オランダ王国

ドイツ連邦共和国

国文学デジタル資料館システムの国際共同構築と利用に関する研究

江戸 英雄

渡航先 アメリカ合衆国

目的 国文学デジタル資料館システムの国際共同構築と利用に関する研究

期間 平成11年2月27日～平成11年3月12日

山崎 圭

渡航先 オランダ王国

目的 ドイツ連邦共和国

期間 平成11年2月28日～平成11年3月7日

原 正一郎

相田 満

平成11年3月17日

高木 俊輔

渡航先 オランダ王国

目的 ドイツ連邦共和国

期間 平成11年3月27日

安藤 正人

渡航先 オランダ王国

目的 ドイツ連邦共和国

期間 平成11年5月29日～平成11年6月12日

松野 陽一

渡航先 ロバート・キャンベル

目的 大韓民国

期間 平成11年6月19日～平成11年6月18日

松野 陽一

渡航先 ロバート・キャンベル

目的 大韓民国

期間 平成11年6月12日

山崎 圭

渡航先 オランダ王国

目的 ドイツ連邦共和国

期間 平成11年5月31日

原 正一郎

相田 満

平成11年6月1日

原 正一郎

渡航先 アメリカ合衆国

目的 デジタルライブラリ構築のための情報処理的研究

期間 平成11年6月1日～平成12年3月31日

野本 忠司

渡航先 アメリカ合衆国

目的 第37回計算言語学会

期間 平成11年6月19日

松野 陽一

渡航先 ロバート・キャンベル

目的 大韓民国

期間 平成11年6月18日

松野 陽一

渡航先 ロバート・キャンベル

目的 大韓民国

期間 平成11年7月19日

山崎 圭

渡航先 オランダ王国

目的 ドイツ連邦共和国

期間 平成11年7月22日

原 正一郎

調査  
 期 間 平成11年7月22日  
 平成11年8月5日

山崎 誠

渡 航 先 オランダ王国  
 目 的 ライデン民族学博物  
 館所蔵品の調査  
 期 間 平成11年8月1日  
 平成11年8月11日

松村 雄二

安永 尚志  
 渡 航 先 アメリカ合衆国  
 目 的 ブラジル連邦共和国  
 国文学デジタル資料  
 館システムの国際共  
 同構築と利用に関す  
 る研究のため  
 期 間 平成11年8月19日  
 平成11年3月31日

海外研修旅行

鈴木 淳  
 渡 航 先 アメリカ合衆国  
 目 的 アジア学会文科会の  
 ワークショップ出席  
 及び古典籍調査  
 期 間 平成11年3月8日  
 平成11年3月16日

### 新収資料紹介(44)

#### 和学者書簡集 写二巻

本書簡集は、平成九年東京古典  
 会で入札購入したもので、青銅色  
 の牡丹唐草文様綴子表紙の卷子本  
 二軸からなり、それぞれ書簡類を  
 貼り継いで仕立ててある。いまそ  
 の概要を示せば次の通り。

〈上巻〉

- \* (1) 賀茂真淵(青木菅根宛)
  - \* (2) 本居宣長(植松有信宛)
  - \* (3) 平田篤胤(新庄道雄宛)
  - \* (4) 加藤千蔭(村田春海宛)
  - \* (5) 村田春海(伴蒿蹊宛)
  - \* (6) 楳取魚彦(宛先不明)
  - \* (7) 石塚竜麻呂(波多君)
  - \* (8) 荷田哲生子(たるい様)
  - \* (9) 長瀬真幸(中島広足宛)
  - \* (10) 屋代弘賢(立原杏所宛)
- 〈下巻〉
- \* (11) 賀茂季鷹(御かたへの  
 女房たち)
  - (12) 似雲 寛保二年和歌四首
  - \* (13) 密庵僧慈(加藤藤次宛)
  - (14) 遊野井公麗 三首詠草
  - (15) 橋 守部(中島広足宛)
  - (16) 加納諸平(伴林光平宛)
  - (17) 村田泰足(不泄宛)
  - \* (18) 内藤広前(伴信友宛)

(19) 一柳千古(中島広足宛)

(20) 近藤光輔(同右)

(21) 佐々木春夫(伴林光平宛)

以上計二十一通であるが、中に  
 は和歌詠草を二点ほど含む。近世  
 中期の似雲、真淵から幕末の諸平、  
 広前らまで、和学者歌人に限って  
 蒐集したもの。旧蔵者は、上巻の  
 首に「浜雄蔵書」の朱文方印を捺  
 すことから、弥富浜雄と知られる。  
 同氏は近世和学研究に目立った業  
 績を遺しており、とくに中島広足  
 の研究は著名。本書簡集に広足宛  
 の三通が含まれるのは、そのため  
 である。また同氏は書簡、短冊の  
 蒐集家としてもつとに有名であり、  
 大正四年には歌文珍書保存会より  
 『名家書翰集抄』を出し、秘蔵の  
 百七通について翻印紹介された。  
 そのうち本書簡集と重複する八通  
 については、右の各書簡の頭に\*  
 印を付しておいた。他の十余通に  
 ついては、大半が新出書簡と考え  
 られるが、その精細な調査は他日  
 を期したい。

書簡の中には、それぞれ多少面  
 白い内容を含むが、いま(9)広

足宛長瀬真幸書簡の一部を左に紹  
 介しておこう。旧蔵者の識語によ  
 れば、年紀は文政十二年という。

(略) 正月以来所々発会二被

招出席仕候。擁書漫筆作者高

田与清ト申もの、岸本由豆流

など、も逢申候。春海門人多

御坐候。頃日由豆流亭初会ニ

参り申候所、大会ニて何か混

雑成ル会ニ而、詩歌書画狂歌

等迄集り大酒筵、江戸中名家

大概集り、或ハ歌を短冊扇面

等二書もの有り、又は詩を書

き画をかき酒のむもあり。大

ばなしいたし論ずるもあり。

寝ぼけ先生真顔など申狂歌師

も来り。画ハ高島寿一郎千春

文ちやうなども参り、僧俗男

女老少内外ニ而、五十も人数

有之たると相見、美婦瓶を取

はてはおどり候よし

右は、千蔭、春海なきあとの江戸

の学芸界の動向を示す好資料とい

える。とくに蔵書家で、その父が

『江戸生艶気樺燒』の主人公艶二

郎に擬せられる由豆流主権の書画

会の、派手な混雑ぶりが興味深い。  
 (整理閲覧部・鈴木淳)

評議員

任期 平成10年7月1日〜平成12年6月30日

朝尾直弘 京都橋女子大学文学部教授、京都大学名誉教授

阿部 謹也 共立女子大学長、一橋大学名誉教授

阿部 充夫 東京国立博物館長

網野 善彦 元神奈川大学経済学部特任教授

石毛直道 国立民族学博物館長

稲賀敬二 安田女子大学文学部教授、広島大学名誉教授

猪瀬 博 学術情報センター所長、東京大学名誉教授

大口 勇次郎 お茶の水女子大学教育学部教授

甲斐 睦朗 国立国語研究所長

河合 準雄 国際日本文化研究センター所長、京都大学名誉教授

久保田 淳 百合合女子大学文学部教授、東京大学名誉教授

興 膳 宏 京都大学大学院文学部研究科教授

雜賀 美枝 ノートルダム清心女子大学長

佐原 眞 国立歴史民俗博物館長

竹西 寛子 作家・評論家

田中 彰 札幌学院大学経済学部教授、北海道大学名誉教授

堤 精二 お茶の水女子大学名誉教授

徳江 元正 國學院大学文学部教授

蓮 實重彦 東京大学長

平岡 敏夫 筑波大学名誉教授、群馬県立女子大学名誉教授

運営協議員

任期 平成10年8月1日〜平成12年7月31日

久保木 哲夫 都留文科大学長

後藤 祥子 日本女子大学文学部教授

外村 南都子 百合合女子大学文学部教授

名和 修 (財)陽明文庫長

延廣 眞治 東京大学大学院総合文化研究科教授

野山 嘉正 放送大学教授

日野 龍夫 京都大学大学院文学研究科教授

藤井 讓治 京都大学大学院文学研究科教授

宮地 正人 東京大学史料編纂所教授

吉原 健一郎 成城大学文学部教授

共同研究委員会委員

任期 平成11年4月1日〜平成13年3月31日

妹尾 好信 広島大学文学部助教授

野村 精一 実践女子大学文学部教授

富士 昭雄 駒澤大学文学部教授

松浦 友久 早稲田大学文学部教授

松尾 葦江 宇都宮大学教育学部教授

三木 紀人 お茶の水女子大学教育学部教授

国文学文獻資料収集計画委員会委員

任期 平成10年4月1日〜平成12年3月31日

井上 敏幸 佐賀大学文化教育学部教授

狩野 博幸 京都国立博物館学芸課美術室長

沢井 耐三 愛知大学文学部教授

白石 克 慶應義塾大学三田メディアセンター調査役

三村 晃功 光華女子大学文学部教授

任期 平成11年4月1日〜平成13年3月31日

池宮 正治 琉球大学法文学部教授

江本 裕 大妻女子大学文学部教授

岡崎 久司 大東急記念文庫学芸部長

滝澤 貞夫 信州大学教育学部教授

平野 由紀子 お茶の水女子大学大学院人図文化研究科教授

国際日本文学研究集会委員会委員

任期 平成10年4月1日〜平成12年3月31日

今関 敏子 帝塚山学院大学文学部教授

木越 治 金沢大学文学部教授

小池 正胤 東京学芸大学名誉教授

濁 沼 誠二 北海道教育大学教育学部岩見沢校教授

中島 国彦 早稲田大学文学部教授

山口 博 聖徳大学人文学部教授

文獻目録委員会委員

任期 平成10年4月1日〜平成12年3月31日

安藤 修平 富山大学教育学部教授

安藤 宏 東京大学大学院人文社会系研究科助教授

石川 了 大妻女子大学文学部教授

遠藤 宏 成蹊大学文学部教授

菊地 仁 山形大学人文学部教授

木越 治 金沢大学文学部教授

後藤 祥子 日本女子大学文学部教授

鈴木 泰 お茶の水女子大学教育学部教授

高橋 博史 百合合女子大学文学部助教授

前田 雅之 東京家政学院大学人文学部助教授

松村 友視 慶應義塾大学文学部教授

安田 尚道 青山学院大学文学部教授

原本テキストデータベース委員会委員

任期 平成10年4月1日〜平成12年3月31日

青木 周平 國學院大学文学部教授

池上 洵一 神戸大学文学部教授

今西 裕一郎 九州大学文学部教授

岩下 武彦 中央大学文学部教授

小池 一行 宮内庁書禮部図書調査官

野村 精一 実践女子大学文学部教授

中山 右尚 鹿児島大学教育学部教授

情報システム委員会委員

任期 平成10年4月1日〜平成12年3月31日

伊井 春樹 大阪大学文学部教授

石塚 英弘 図書館情報大学図書館情報学部教授

稲岡耕二 上智大学文学部教授

根岸正光 学術情報センター教授

杉田繁治 国立民族学博物館民族学研究所開発センター教授

照井武彦 元国立歴史民俗博物館情報資料研究部教授

長崎健 中央大学文学部教授

永村眞 日本女子大学文学部教授

中山雅哉 東京大学大型計算機センター助教

原田公子 国立国会図書館総務部副部長

星野聰 京都大学名誉教授

村上學 元名古屋大学文学部教授

市古夏生 お茶の水女子大学文学部教授

加美宏 同志社大学文学部教授

柴田光彦 跡見学園女子大学文学部教授

高橋柏 東京大学附属図書館事務部長

堤精二 お茶の水女子大学名誉教授

戸澤幾子 国立国会図書館図書部古典籍課長

益田宗 国立歴史民俗博物館名誉教授

国文学文献資料調査員

任期 平成11年4月1日～平成12年3月31日

〔北海道・東北地区〕

杉浦清志 北海道教育大学教育学部函館校教授

竹下香織 山形女子短期大学助教

水田信也 北海道教育大学教育学部旭川校助教

名子喜久雄 山形大学教育学部助教

播摩光寿 国学院短期大学教授

細田季男 北海道札幌新川高等学校教諭

宮澤照恵 北星学園大学経済学部助教

山本陽史 山形大学教育学部助教

〔関東地区〕

池澤一郎 明治大学法学部助教

石井倫子 放送大学非常勤講師

石神秀美 鶴見大学文学部非常勤講師

井上泰至 防衛大学校人文科学教室助教

越後敬子 実践女子大学文学部助手

佐伯孝弘 清泉女子大学文学部助教

佐藤智広 昭和学院短期大学講師

嶋中道則 東京学芸大学教育学部教授

杉浦晋 東京成徳短期大学助教

鈴木俊幸 中央大学文学部教授

丹陽子 東京学芸大学教育学部助教

中丸宣明 山梨大学教育人間科学部助教

藤田洋治 東京成徳短期大学助教

宗像和重 早稲田大学政治経済学部教授

山下琢巳 東京成徳短期大学助教

山中玲子 法政大学能楽研究所助教

湯浅佳子 東京学芸大学教育学部助手

綿拔豊昭 図書館情報大学図書館情報学部助教

〔中部地区〕

有働裕 愛知教育大学教育学部助教

岡本勝 愛知教育大学教育学部教授

神作研一 金城学院大学文学部助教

島原泰雄 皇學館大学文学部教授

鈴木孝庸 新潟大学人文学部教授

高木元 愛知県立大学文学部助教

高橋明彦 金沢美術工芸大学美術工芸学部助教

田中康二 富士フェニックス短期大学助教

西山秀人 上田女子短期大学助教

服部仁 同朋大学文学部教授

広部俊也 新潟大学人文学部助教

森沢多美子 都留文科大文学部非常勤講師

柳澤良一 金沢学院大学文学部教授

〔近畿地区〕

青木稔弥 神戸松蔭女子学院大学文学部教授

安達敬子 京都府立大学文学部助教

出原隆俊 大阪大学大学院文学研究科助教

大高洋司 甲南女子大学文学部教授

大谷俊太 奈良女子大学文学部助教

岡本聡 芦屋女子短期大学講師

日下幸男 大阪市立淀商業高等学校教諭

小林健二 大谷女子大学文学部教授

須田千里 京都大学総合人間学部助教

曾根誠一 花園大学文学部教授

中西健治 相愛大学人文学部教授

野口隆 大阪学院大学経済学部講師

藤田眞一 京都府立大学文学部教授

峯村至津子 京都女子大学文学部講師

三村晃功 光華女子大学文学部教授

林原純生 神戸大学文学部教授

〔中国・四国地区〕

會田実 四国大学短期大学部助教

赤羽淑 ノートルダム清心女子大学文学部助教

赤松万理 鳴門教育大学学校教育学部助教

飯倉洋一 島根大学文学部教授

石川一 山口大学人文学部助教

大伏春美 徳島文理大学文学部教授

久保田 啓一 広島大学文学部助教

倉本 昭 梅光女学院大学講師

島田 大助 安田女子大学文学部非常勤講師

下田 祐輔 徳島文理大学文学部助教

妹尾 好信 広島大学文学部助教

田中 則雄 島根大学文学部助教

西本 寮子 広島女子大学国際文化学部助教

長谷川 泰志 広島経済大学経済学部助教

福田 安典 愛媛大学教育学部助教

古瀬 雅義 安田女子大学文学部助教

松原 一義 鳴門教育大学学校教育学部助教

森下 要治 広島文教女子大学文学部講師

〔九州地区〕

池宮 正治 琉球大学文学部助教

井上 洋子 福岡国際大学コミュニケーション学部助教

今井 明 福岡女子大学文学部助教

上里 賢一 琉球大学文学部助教

後小路 薫 別府大学文学部助教

小川 剛生 熊本大学文学部講師

榎澤 葉子 九州女子大学文学部助教

勝俣 隆 長崎大学教育学部助教

國生 雅子 筑紫女学院大学文学部助教

鈴木 元 熊本県立大学文学部講師

高橋 昌彦 純真女子短期大学助教

松本 常彦 北九州大学文学部助教

山田 洋嗣 福岡大学文学部助教

若木 太一 長崎大学環境科学部助教

国文学研究情報研究専門員

任期 平成11年4月1日～平成12年3月31日

小川 靖彦 日本女子大学文学部助教

近藤 みゆき 千葉大学文学部助教

鈴木 豊 文京女子短期大学助教

堤 玄太 帝京大学文学部講師

寺井 正憲 千葉大学教育学部助教

山下 哲郎 明治大学政治経済学部非常勤講師

湯浅 佳子 東京芸芸大学教育学部助手

青柳 隆志 東京成徳短期大学助教

池田 三枝子 実践女子大学文学部講師

小林 徹行 和洋女子大学文学部非常勤講師

近藤 泰弘 青山学院大学文学部助教

佐々木 孝浩 慶應義塾大学附属研究所庶文原助手

中村 文 共立女子大学非常勤講師

山口 明穂 中央大学文学部助教

湯浅 吉美 成田山仏教研究所嘱託

横井 孝 静岡大学教育学部助教

原本テキストデータベース監修員

任期 平成11年4月1日～平成12年3月31日

池田 尚隆 山梨大学教育人間科学部助教

加藤 静子 都留文科大文学部助教

辛島 正雄 九州大学文学部助教

木村 由美子 東京都立墨芸高等学校教諭

小島 明子 川崎医療福祉大学医療福祉学部助教

重富 克史 横浜山手女子高等学校教諭

多田 圭子 駒沢大学非常勤講師

福田 景道 島根大学教育学部助教

福長 進 神戸大学文学部助教

横井 孝 静岡大学教育学部助教

渡瀬 茂 富士フエニックス短期大学助教

任期 平成11年4月1日～平成12年3月31日

課題名 〔後素集〕の総合的研究

中本 大 立命館大学文学部助教

岩山 泰三 早稲田大学大学院文学研究科研究生

小助川 元太 立命館大学大学院文学研究科博士課程

綿田 稔 山口県立美術館学芸員

住吉 朋彦 宮内庁書陵部研究員

課題名 〔テニハ秘伝の研究〕

根上 剛士 東洋大学文学部助教

大谷 俊太 奈良女子大学文学部助教

大村 敦子 武庫川女子大学文学部非常勤講師

近藤 泰弘 青山学院大学文学部助教

鈴木 順子 青山学院大学大学院文学研究科博士課程

鈴木 元 熊本県立大学文学部講師

武井 和人 埼玉大学教養学部助教

西田 正宏 大阪女子大学人文社会学部専任講師

綿拔 豊昭 図書館情報学図書館情報学部助教

課題名 〔中世文芸作品と仏教との関係に關する学際的研究〕

松尾 剛次 山形大学文学部助教

末木 文美士 東京大学大学院人文社会学部研究科助教

吉村 均 財団法人東方研究会研究員

米井 輝圭 文化庁文化財部学務課専門員

課題名 〔うつほ物語とその周辺文学の研究〕

室城 秀之 白百合女子大学文学部助教

稲員 直子 日本女子大学大学院文学研究科博士課程

上原 作和 清泉女子大学文学部兼任講師

大井田 晴彦 東京大学大学院人文社会学部研究科助手

佐藤 信一 白百合女子大学文学部助教

正道寺 康子 聖徳大学短期大学部講師

中山 陽子 清泉女子大学文学部非常勤講師



## 新ホームページのお知らせ

当館では今年度より、ホームページを大幅に充実させました。閲覧利用の案内はもちろんのこと、当館主催の講演会・集会等についても詳しくお知らせしております。

また、全国規模の学会については、大会・例会等の詳細なプログラムを載せ、会員以外の人にも情報を提供しています。リンク集では、国文学はもとより、隣接する諸分野についても広く関連ホームページを集めています。

どうぞアクセスしてみてください。アドレスは <http://www.nijl.ac.jp/> です。

また、みなさまのご意見や情報をお待ちしております。メールをお寄せ下さい。

増井ゆう子(情報サービス室情報整備係)

長津 昭(庶務課人事係長)

○平成11年5月1日  
国文学研究資料館永年勤続者表彰規定に基づき、次の方に表彰状を授与し、記念品を贈呈した。

## 国文学研究資料館永年勤続者表彰

宮谷 聡 駒場東邦中・高等学校非常勤講師  
稲田 路 子 白百合女子大学大学院文学研究科博士課程  
課題名 「近世和歌御会の基礎的研究」  
和田 道 子 中京大学教養部教授  
赤松 万里 鳴門教育大学学校教育学部助教授  
大石 房 子 放送大学非常勤講師  
坂内 泰 子 共立女子短期大学非常勤講師

## 第23回国際日本文学研究集会

特集テーマ「境界と日本文学—翻訳とその周辺—」

日時：平成11年11月18(木)・19日(金)

第1日 受付開始12:30 開会13:00

\*研究発表(13:10~)

「通俗唐玄宗軍談」の翻訳の方法 熊 慧 蘇  
—その典拠と翻案の様相—

「定家卿百番自歌合」の「春部」について  
—和歌の配列をどう読むか—アンドレア・ラオス  
源氏物語の女性的叙述体の翻訳における問題

ソーニャ・アンツェン

実用主義の翻訳から芸術言語の翻訳へと

—芸術的翻訳思想の誕生とその周辺— 鄭 炳 浩  
「新国王」に現れた韓国観 李 応 寿

—「アルト ハイデルベルク」との比較において—  
森鷗外訳ストロンドベリ 長島 要一

—「償鬼」から消えたエロス—

\*レセプション(17:30~)

第2日

\*研究発表(10:30~)

文化の翻訳としての映画物語 張 榮 順  
—谷崎潤一郎「肉塊」論—

台湾の「日本語文学」における翻訳の装置

李 郁 蕙

タイ語訳の日本文学 カンラヤニー・シタスワーン

\*公開講演(13:30~)

露伴の時代—日本近代文学史における翻訳とその周辺をめぐって— 湯沼 誠二

題詠の翻訳—頓阿の歌をめぐって—

スティーブン・カーター

参加ご希望の方は当館「国際日本文学研究集会事務局」宛に、氏名・住所・電話・職業(所属)・研究分野・レセプション(会費三千元)参加希望の有無を書いて、郵送またはFAX(03-3785-4455)にて11月5日(金)までにお申し込み下さい。参加費千円を当日申し受けます。

平成11年度秋期特別展示・公開講演会のご案内  
芭蕉自筆「奥の細道」展

## 【展 示】

平成八年秋に出現した芭蕉自筆本「奥の細道」を、関東地区ではじめて公開いたします。あわせて、芭蕉の筆蹟の参考とすべきもの数点を展示し、自筆本研究の深化をはかるものです。多数のみなさまのご来館をお待ちいたします。

## 期 間

平成11年10月25日(月)~11月6日(土)

(土、日、祝日及び会期中の休館日10月29日(金)

も開催)

## 時 間

9:30~16:30

## 会 場

当館展示室(2階)

## 展示書目

芭蕉自筆本「奥の細道」

芭蕉筆「許六離別詞」

芭蕉筆怒詠宛書簡ほか 入場無料。

## 【講演会】

自筆本「奥の細道」とはなにか

国文学研究資料館教授 上野 洋三

【奥の細道】の版本について

早稲田大学文学部教授 雲英 末雄氏

## 日 時

平成11年10月30日(土)

13:30~16:30

## 会 場

当館大会議室(1階)

聴講無料。定員250名。

## 申込方法

聴講ご希望の方は往復はがきに、郵便番号・住所・氏名を記入の上、国文学研究資料館整理閲覧部参考室宛に、10月8日までに郵送してください。

## 閲覧室利用案内

### OPACが新しくなりました！

6月14日（月）よりOPAC（Online Public Access Catalog：オンライン利用者目録）が新しくなりました。その特徴と接続方法について簡単にお知らせします。

#### 特徴

- ・全文検索システムですので、検索したい語が項目の冒頭、中間、末尾いずれにあるかを意識せずに検索できます。そのため漢字での検索が容易になりました。
- ・今までは図書（明治期以降の図書、翻刻・影印本等）のみの検索でしたが、雑誌も検索できるようになりました。

#### 接続方法

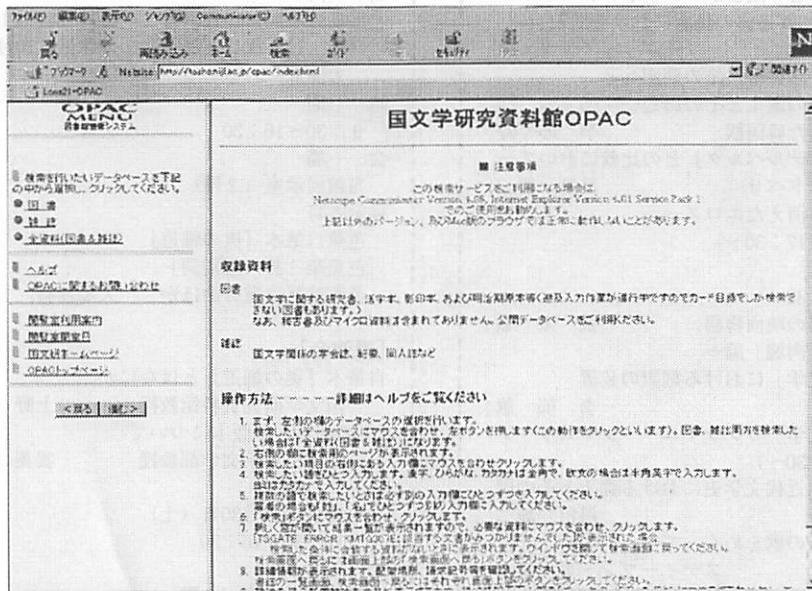
インターネットのブラウザで下記のURLを指定してください。

<http://tosho.nijl.ac.jp/opac>

国文学研究資料館のホームページ（<http://www.nijl.ac.jp/>）からも「閲覧利用」や「電子資料館」のページを経由してOPACの検索ができます。

操作説明はOPACトップページの画面右下に表示されています。

初めての方はここをご覧ください。また詳しい説明はヘルプをクリックすると表示されます。



OPACのほかにも、国文学研究資料館のホームページの更新を機に閲覧室の利用案内も新しくなりました。

みなさんのご意見をお待ちしています。

## 人事異動（平成11年3月～平成11年8月）

## 【教官】

発令年月日	氏名	異動内容（教官職）	旧（現）官職
		〔停年退職〕	
11. 3. 31	立川 美彦		研究情報部教授（研究情報部長）
		〔昇任〕	
11. 4. 1	武井 協三	研究情報部教授 〔採用〕	研究情報部助教授
11. 4. 1	堀川 貴司	研究情報部助教授	愛知県立大学文学部助教授
〃	伊藤 鉄也	研究情報部助教授	大阪明浄女子短期大学文芸科助教授
〃	野本 忠司	研究情報部助教授	㈱日立製作所基礎研究所研究員 (成城大学文芸学部教授)
〃	枅尾 武	文献資料部客員教授（12.3.31まで）	(都留文科大学文学部教授)
〃	加藤 静子	研究情報部客員教授（12.3.31まで）	(國學院大学文学部教授)
〃	千々和 到	史料館客員教授（12.3.31まで）	
〃	木戸 雄一	文献資料部非常勤研究員（12.3.31まで）	
〃	安道百合子	研究情報部非常勤研究員（12.3.31まで）	
〃	副田 忠	整理閲覧部非常勤研究員（12.3.31まで）	
〃	藤實久美子	史料館非常勤研究員（12.3.31まで）	
		〔併任等〕	
11. 4. 1	松村 雄二	研究情報部長	(研究情報部教授)
〃	堀川 貴司	研究情報部情報資料室長	(研究情報部助教授)
〃	武井 協三	〃 情報分析室長	(研究情報部教授)
〃	野本 忠司	〃 情報メディア室長	(研究情報部助教授)
〃	松村 雄二	〃 研究開発室長	(研究情報部教授)
〃	妹尾 好信	文献資料部助教授（11.9.30まで）	(広島大学文学部助教授)
〃	櫻井 陽子	研究情報部助教授（12.3.31まで）	(熊本大学教育学部助教授)
〃	松島 周一	史料館助教授（12.3.31まで）	(愛知教育大学教育学部助教授)

## 【事務系職員】

発令年月日	氏名	異動内容（教官職）	旧（現）官職
		〔転出〕	
11. 4. 1	渡辺 正昭	東京大学史料編さん所庶務掛長	庶務課庶務係長
〃	長谷 佳彦	東京工業大学教務部教務課専門職員	庶務課共同利用係長
〃	中村 洋一	東京工業大学工学部等経理掛長	会計課総務係長
〃	太田 吉彦	東京学芸大学施設部企画課総務係長	会計課用度係長
〃	岩松 浩子	東京水産大学附属図書館情報サービス係長	情報サービス室受入係
〃	田口 琢	東京学芸大学総務部人事課任用係主任	庶務課人事係人事主任
〃	大河 史彦	東京大学施設部建築課公営第二掛主任 〔転入〕	会計課管財係管財主任
11. 4. 1	加藤 洋一	庶務課庶務係長	東京大学医科学研究所管理課人事掛主任
〃	本多 静志	庶務課共同利用係長	東京工業大学工学部等人事掛人事主任
〃	山本 和彦	会計課総務係長	東京工業大学工学部等経理掛
〃	小室 史郎	会計課用度係長	東京学芸大学経理部主計課予算係主任
〃	須賀 誠	庶務課人事係	東京学芸大学学務部入試課入学試験第二係
〃	佐野 一良	会計課管財係	東京大学施設部建築課工事計画掛
〃	和田 洋一	情報サービス室受入係	横浜国立大学附属図書館情報サービス課
		〔館内異動〕	
11. 4. 1	尾迫 雅英	会計課総務係総務主任	会計課総務係
〃	大久保武史	会計課情報処理係	会計課経理係

## 平成11年度

## 秋季学会

①事務局 ②開催日 ③会場  
(発表等プログラムの詳細は当館  
ホームページを御参照下さい)

## 歌舞伎学会

①〒169-8050 新宿区西早稲田1-6-1 早稲田大学演劇博物館内 03-3203-4141内線71-5936 (月曜午後のみ) ②12月11・12日 ③大東文化大学

## 訓点語学会

①〒155-0032 世田谷区区沢1-20-10 fax03-3487-4891 ②10月29日

## 名古屋大学

③名古屋大学  
計量国語学会  
①〒167-8585 杉並区善福寺2 東京女子大学3号館3118号室内 03-3395-1211内線2339 ②9月25日

## 筑波女子大学

③筑波女子大学  
国語学会

①〒113-0033 文京区本郷7-3-1 東京大学文学部国語研究室内 03-3812-2111 事務取扱 〒113-0033 文京区本郷1-13-7 日吉ハイツ404 03-5802-0615 ②10月30・31日 ③名古屋大学

## 上代文学会

①〒156-8550 世田谷区桜上水3-25-40 日本大学文理学部国文学研究室内 03-3329-1151(代) ②11月13・14日 ③立正大学

## 昭和文学会

①〒101-0064 千代田区猿楽町2-2-5 笠間書院内 03-3295-1331 ②11月13・14日 ③国学院大学  
説話・伝承学会

①〒604-8456 京都市中京区西ノ京壺ノ内町8-1 花園大学丸山顯徳研究室内 075-811-5181 ②12

月3～5日 ③宮崎県椎葉村

## 全国大学国語教育学会

①〒657-8501 神戸市灘区鶴甲3-11 神戸大学発達科学部内 078-803-7718 ②10月21～23日 ③上越教育大学

## 全国大学国語国文学会

①〒101-0064 千代田区猿楽町2-2-6 畑山第1ビル(株)おうふう気付 03-3294-0857 ②10月30・31日 ③就実女子大学

## 中古文学会

①〒214-8580 川崎市多摩区東三田2-1-1 専修大学文学部国文学科研究室内 044-911-1230 ②10月16・17日 ③奈良女子大学

## 中世文学会

①〒305-8571 つくば市天王台1-1-1 筑波大学芸文・言語学系犬井研究室内 0298-53-4126 ②10月30～11月1日 ③筑波大学

## 日本演劇学会

①〒194-8610 町田市玉川学園6-1-1 玉川大学文学部芸術学科演劇研究室内 fax042-739-8092/関西支部事務局 〒577-8502 東大阪市小若江3-4-1 近畿大学芸学部芸術学科演劇芸能研究室 fax06-6729-2763 ②10月2・3日

③京大会館・大和高田市文化会館  
日本音声学会

①〒113-8622 文京区本駒込5-16-9 日本学会事務センター 03-5814-5801 ②9月25・26日 ③東北大学

## 日本歌謡学会

①〒182-0001 調布市緑ヶ丘1-25 白百合女子大学外村研究室内 03-3326-5050 ②9月25・26日 ③秋田県田沢湖町たざわこ芸術村

## 日本近世文学会

①〒156-8550 世田谷区桜上水3-25-40 日本大学文理学部国文学研究室内 03-5317-9706 ②11月13・14日 ③相愛大学・相愛女子短期大学

## 日本近代文学会

①〒259-1292 平塚市北金目1117 東海大学文学部日本文学科第2研究室内 0463-50-2196 事務取扱 〒113-8622 文京区本駒込5-16-9 学会センターC21 日本学会事務センター内 03-5814-5810 ②10月23・24日 ③活水女子大学

## 社団法人 日本語教育学会

①〒101-0065 千代田区西神田2-4-1 東方学会新館 03-3262-4291

②10月2・3日 ③岡山大学

## 日本児童文学学会

①〒565-0826 吹田市千里万博公園10-6 大阪国際児童文学館内 06-6876-8800 ②11月20～22日

## ③大阪国際女子大学

## 日本社会文学会

①〒102-8160 千代田区富士見2-17-1 法政大学80年館610 川村研究室 03-3264-9760 ②11月27・28日 ③ノートルダム清心女子大学

## 日本文学協会

①〒170-0005 豊島区南大塚2-17-10 03-3941-2740 ②10月30・31日 ③横浜市立大学

## 日本文学風土学会

①〒359-1112 所沢市泉町1789 秋草学園短期大学国文学科研究室 0429-25-1111 ②11月20日 ③専修大学

## 日本文体論学会

①〒110-0004 台東区下谷1-5-34 (株)三修社内 03-3842-1711 ②11月19・20日 ③広島女学院大学

## 日本方言研究会

①連絡先1 〒192-0397 八王子市南大沢1-1 東京都立大学国語研究室内/日本方言研究会幹事 0426-77-2135 連絡先2 〒115-8620 北区西ヶ丘3-9-14 国立国語研究所気付日本方言研究会幹事 03-5993-7630 ②10月29日 ③愛知県立大学

## 俳文学会

①〒162-8644 新宿区戸山1-24-1 早稲田大学文学部雲英英雄研究室内 03-5286-3712 ②10月16～18日 ③信州大学

## 萬葉学会

①〒558-8585 大阪市住吉区杉本3-3-138 大阪市立大学文学部国語・国文学研究室内 06-6605-2413、2414 ②10月16～18日

## ③中央大学

## 和歌文学会

①〒192-0393 八王子市東中野742-1 中央大学文学部国文学研究室内 0426-74-3789 ②9月25～27日 ③金沢学院大学

## 和漢比較文学会

①〒162-8644 新宿区戸山1-24-1 早稲田大学文学部田中隆昭研究室内 03-5286-3706 ②10月9・10日 ③早稲田大学

国文学研究資料館報 第五三号  
平成十一年九月発行

編集・発行者

国文学研究資料館

東京都品川区豊町一六一〇

郵便番号一四二七八五

電話(三七八五)七一一一

FAX(三七八五)七〇五一

URL: <http://www.nijiac.jp/>

印刷 株式会社三協社